

磐姫皇后、天皇を思ひて作らす歌四首

八五番

君きみが行ゆき 日け長ながくなりぬ 山やまたう尋たうね 迎むかへか行ゆかむ
待まちにか待またむ

八六番

かくばかり 恋こひつつあらずは 高たか山やまの 岩いは根ねし
まきて 死しなましものを

八七番

ありつつも 君きみをば待またむ うちなびく 我わが
黒くろ髪かみに 霜しもの置おくまでに

八八番

秋あきの田たの 穂ほの上うへに霧きらふ 朝あさ霞がすみ いつへの方かたに
我あが恋こひやまむ